

国立

国会

図書館

月報

NATIONAL
DIET
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2022.6



国立国会図書館が赤坂離宮にあった頃

あの人の蔵書 旧蔵者は誰?! 松平慶民の蔵書

国立国会図書館で働いています Season2

国立 国会 図書館 月報

NO. 734
JUNE 2022

CONTENTS

- 1 『リーンハルトとゲルトルート』
小説に描かれた理想像——家族、国家、そして教育
今月の二冊 国立国会図書館の蔵書から
- 4 国立国会図書館が赤坂離宮にあった頃
- 13 館内スコープ
オンライン研修までの道のり
- 14 あの人蔵書 第6回
旧蔵者は誰?! 松平慶民の蔵書
- 20 国立国会図書館で働いています Season2 no.9
- 26 本屋にない本
『ミャンマーの木造建築文化』
- 27 NDL TOPICS
- 24 ミニ電子展示「本の万華鏡」第31回
成人の儀式——古代から近世まで——

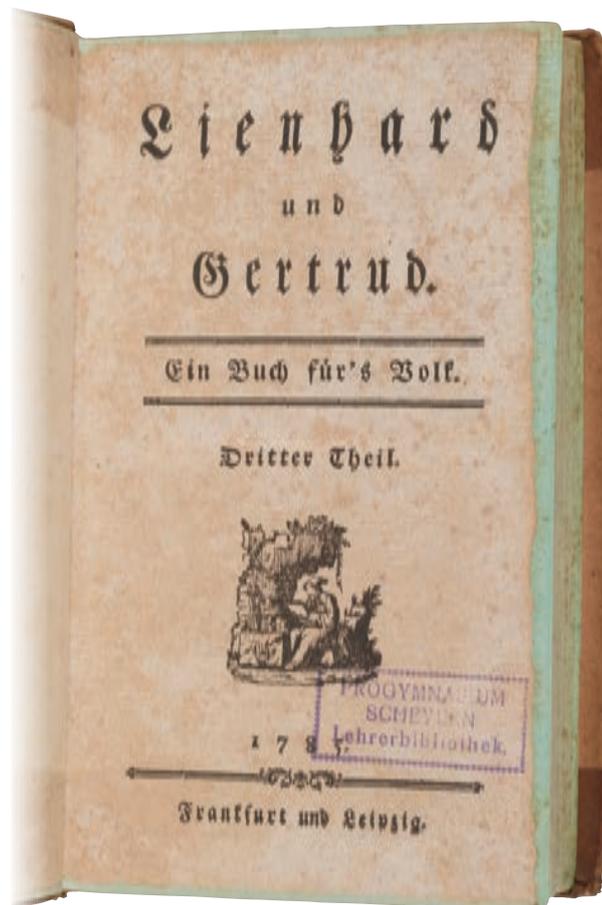


表紙：「築地小景」逸見亨 画
『書窓』2巻2号 日本愛書会書窓
発行所 1935.11 21cm<請求記
号 Z21-163>

『リーンハルトとゲルトルート』

小説に描かれた理想像——家族、国家、そして教育

三浦啓



Lienhard und Gertrud : ein Buch für das Volk

by Johann Heinrich Pestalozzi, Berlin : G.J. Decker, Leipzig : G.J. Decker, 1781-1785 3 v. : music ; 17 cm
<請求記号 FC32-A67>

3巻の標題紙。「PROGYMNASIUM SCHEYERN Lehrerbibliothek」(シェイエレン・プロギムナジウム教師図書館)のものと思われる印が押されている。

ペスタロッチ (Pestalozzi, Johann Heinrich, 1746・1827) という人名をご存知でしょうか。教師になるために学んだことがある人であれば、耳にしたことがあるかもしれません。ペスタロッチは、「近代の教育思想と学校における初等教育の基盤を築いた教育思想家、教育実践家¹⁾」とされる人物です。今回ご紹介する本は、そんなペスタロッチの代表的著作の一つ、『Lienhard und Gertrud (『リーンハルトとゲルトルート』)』です。

スイスに生まれたペスタロッチは、神学や法学を志した後、重農主義の影響を受けて農場を開くとともに、救貧院を開き、貧しい子どもに読み書きや糸紡ぎを教えようとした。この試みは経営難によって失敗しましたが、この挫折の後、『隠者の夕暮』(Die Abendstunde eines Einsiedlers) や『リーンハルトとゲルトルート』といった著作を発表しました。その後、ペスタロッチはシュタットで孤児院を短い間開いた後、ブルクドルフやイヴェルドンで学園を営み、自らの教育思想の実践にその生涯を費やしました。学園にはヘルバルトやフレールベルといった教育学に顕著な貢献をなした人物も訪れており、ペスタロッチの思想と実践は、その後の教育の発展に大きな影響を及ぼしました。

さて、『リーンハルトとゲルトルート』は、



全部で4巻（第1巻:1781年、第2巻:1783年、第3巻:1785年、第4巻:1787年）のうち、国立国会図書館では第3巻まで所蔵しています。本書は小説ではありますが、随所でペスタロッチの思想が直接的に表現されており、彼が目指す社会改革のマニフェストめいた側面もあります。また、本書は先立って刊行された『隠者の夕暮』で示されたペスタロッチ教育思想の原理を敷衍したものであるとも評されます²。

根は善人ながら酒にだらしない石工リーンハルトの妻、ゲルトルートを中心に、一家が住まうボンナル村を取り巻く様々な問題が、教育を通じて改善されていく、という物語です。

ゲルトルートは、聡明な女性として描かれます。具体的には、子どもたちに生活に必要な知恵を教え、家計をうまく切り盛りするほか、夫リーンハルトを酒におぼれさせ、賭博に誘う代官の不正を領主に直訴する等です。ゲルトルートの直訴がきっかけとなって、領主は村にはびこる不正をただし、貧困にあえぐ家を救う諸々の施策を行い、学校を設立します。この学校における教育の範とされるのが、ゲルトルートの家庭教育は、言葉や算術のほか糸紡ぎといった労働の術を日常の生活を通して教えるものであり、教育が家庭の枠を超えて村全体に広まることで、貧困状態が改善され、ボンナル村全体が良くなつていきます。

ペスタロッチの思想の根底には教育による社会改革の思想があります。そして、ペスタロッチは理想の教育を「家庭」、特に、ゲルトルートのような、子供たちへの母の配慮が行き届いた家庭に求めていました。このことは、本書で述べられた次のような言葉からもうかがうことができます。

人間の家庭の喜びは地上で最も美しいものだ。子供たちについての両親の喜びは人類の最も聖なる喜びだ。(略)その喜びは人類を天にいます父にまで高める。だから主はそのような喜びの涙を祝福し、人々に、彼らの子供たちに対するあらゆる父の誠実と、あらゆる母の配慮との報いをするのだ。

本書からは、聡明な君主のもとでの家父長主義的な改革に対するペスタロッチの期待が読みとれますが、その期待は現実のものとはなりません。一方で、教育を通じて目前の貧困状況を脱し、地域社会、さらには国全体を改善しようとする発想は、近代以降の教育制度に一脈通じるものがあるといえるのではないのでしょうか。

現代では、教育のあり方、社会のあり方、家のあり方、様々なものがペスタロッチの時代とは大きく変わりました。しかし、教育の大切さ、社会をより良いものとしていく精神は、今とは変わらないものがあるでしょう。ペスタロッチの思想が詰まった、とても古いこの一作、いまいちど、素朴に読んでみるのも良いのではないのでしょうか。

日本における受容、理想の教育者ペスタロッチ



(右) 澤柳政太郎 著『教育者の精神』富山房 明治28 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/809720> (モノクロ画像)

(左) 澤柳政太郎、広沢定中 著『ペスタロッチ』金港堂 明治30 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/782446> (モノクロ画像)

日本から遠く離れた18世紀ヨーロッパの教育家、ペスタロッチの教育思想や教育実践は、我が国においてどのような影響を与えたのでしょうか。

わが国では、明治維新と学制の頒布によって、近代的な学校教育がスタートしました。アメリカから来日したお雇い外国人スコット (Scott, M.M.) が、アメリカで発達したペスタロッチの教育方法に基づく教授法 (開発教授) を導入し、学制草創期の学校教育に影響を与えました⁴。

その後、明治30年代頃から、ペスタロッチは、理想の教育者の像としてわが国の教育界で積極的に紹介されるようになりました。成城学園の創設者としても知られる教育者の澤柳政太郎は、ペスタロッチに傾倒しており、ペスタロッチの人物像を日本に広く知らしめました。たとえば、澤柳は著書、『教育者の精神』(1895)で「教育者皆ペスタロッチたるを得べし」と題した章を設け、「大教育者」ペスタロッチの生涯を紹介しています。『ペスタロッチ』と題する伝記本を出版していることから、その傾倒ぶりは見て取れるでしょう。1906年には、澤柳ら教育者たちが、「ペスタロッチ先生誕生百六十年記念会」⁵を挙げており、当時の教育者たちの思いが垣間見えます。

ペスタロッチが澤柳ら教育者によって祭り上げられたことには、当時の教育者の待遇や社会的地位が良くなかったことが、一つの要因としてあるようです。澤柳は開会の辞のなかで「翻つて我が今日の国民教育の状況を考へて見ますれば未だ理窟からして考へる通りには社会から十分なる尊敬も受けて居らない、其の素養に対して、其の職務の重大なる所に相応するだけの待遇も受けて居ないと云ふ事もあります」と述べ、教師の社会的地位の低さや待遇を嘆いています。そのうえで、「若し一度ペスタロッチ先生の性行を追想して見ましたならば、少しも不満足な事を言ふやうなことはなく、大いに自ら慰めることも出来」と述べています。ペスタロッチが理想の教育者とされた背景には、当時の教育者たちが、艱難辛苦に耐え貧民教育に尽くしたペスタロッチの姿と、自身らの境遇とを重ねて見ていたのかもしれません。



「ペスタロッチ先生誕生百六十年記念會記」⁶には、その記念会の様子が刻明に記録されていて、澤柳を始めとした教育者の挨拶や、当日歌われた「ペスタロッチの歌」の楽譜まで掲載されています。



久保天随 著『酔人の妻』育成会 明治34 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/886939> (モノクロ画像)

『リーンハルトとゲルトルート』の初めての邦訳と推測されます。久保天随の翻訳によって『酔人の妻』(1901)というタイトルで刊行されました。この邦訳本は大変売れ行きが良かったらしく、かなり版を重ねたようです。ちなみに、初版ではリーンハルトは「レオナルド」と訳されています。大正3(1914)年の「改22版」⁷では、さらに『隠者の夕暮』の翻訳まで付されています。

1 渡邊満「ペスタロッチ」教育思想史学会 編『教育思想事典 増補改訂版』勁草書房 2017 pp.699-703<請求記号 F2-L104>

2 シュブランガー(吉本均 訳)『教育の思考形式—ペスタロッチ—研究—』明治図書 1962 p.29<請求記号 371.1-cP47Sk-Y>

3 邦訳はペスタロッチ 著、長田新 編『ペスタロッチ—全集 第2巻』平凡社 1959 (『リーンハルトとゲルトルート 第一部』) p.211<請求記号 370.8-cP47p-O>を参照した。

4 「三 小学校教育の内容と方法」文部省 編『学制百年史』帝国地方行政学会 1972 文部科学省ウェブサイト https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1317589.htm

5 初等教育研究会 編『教育研究』23号 1906.2<請求記号 Z7-164> 明治から昭和初期における「ペスタロッチ・ブーム」の様相については、寺岡聖豪「1920年代日本におけるペスタロッチの影響」『福岡教育大学紀要 第四分冊 教職科編』55号 2006.2 pp.79-94<<http://hdl.handle.net/10780/79>>が詳しい。

6 同上、『教育研究』23号

7 ハインリッヒ・ペスタロッチ (久保天随 訳)『酔人の妻と隠者の夕暮 改22版』育成会 大正3 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/937035>

※ URL の最終アクセス日: 2022年4月6日

※ 引用の旧字は新字に、旧仮名づかいはママとしました。



国立国会図書館が 赤坂離宮にあった頃

昭和23(1948)年に開館した国立国会図書館、そのときは永田町ではなく別のところにあったことをご存じでしょうか。昭和36(1961)年に永田町に庁舎ができるまでは、現在の迎賓館である旧赤坂離宮にあったのです*。

戦後、赤坂離宮が皇室のものでなくなり、当時のGHQの指示もあって、国立国会図書館や法務庁などが入居することになりました。向かって左半分が国立国会図書館で、一階を事務スペース、二階を閲覧室にあてました。

ネオバロック様式の壮麗な建築は、エレベーターもなくトイレも少なく、図書館として利用するには不向きでした。しかし、シャンデリアの下にぎっしりと埋まった閲覧者の様子からは、戦後の活字への渴望が伝わってきます。

当時の写真と現在の写真、そして当時執筆されたもの、思い出を執筆した文献から、赤坂離宮にあった頃の国立国会図書館の草創期をふりかえります。

*三宅坂分室、支部上野図書館を含めた3館体制



カラー写真の出典：内閣府迎賓館ウェブサイト（以下同）



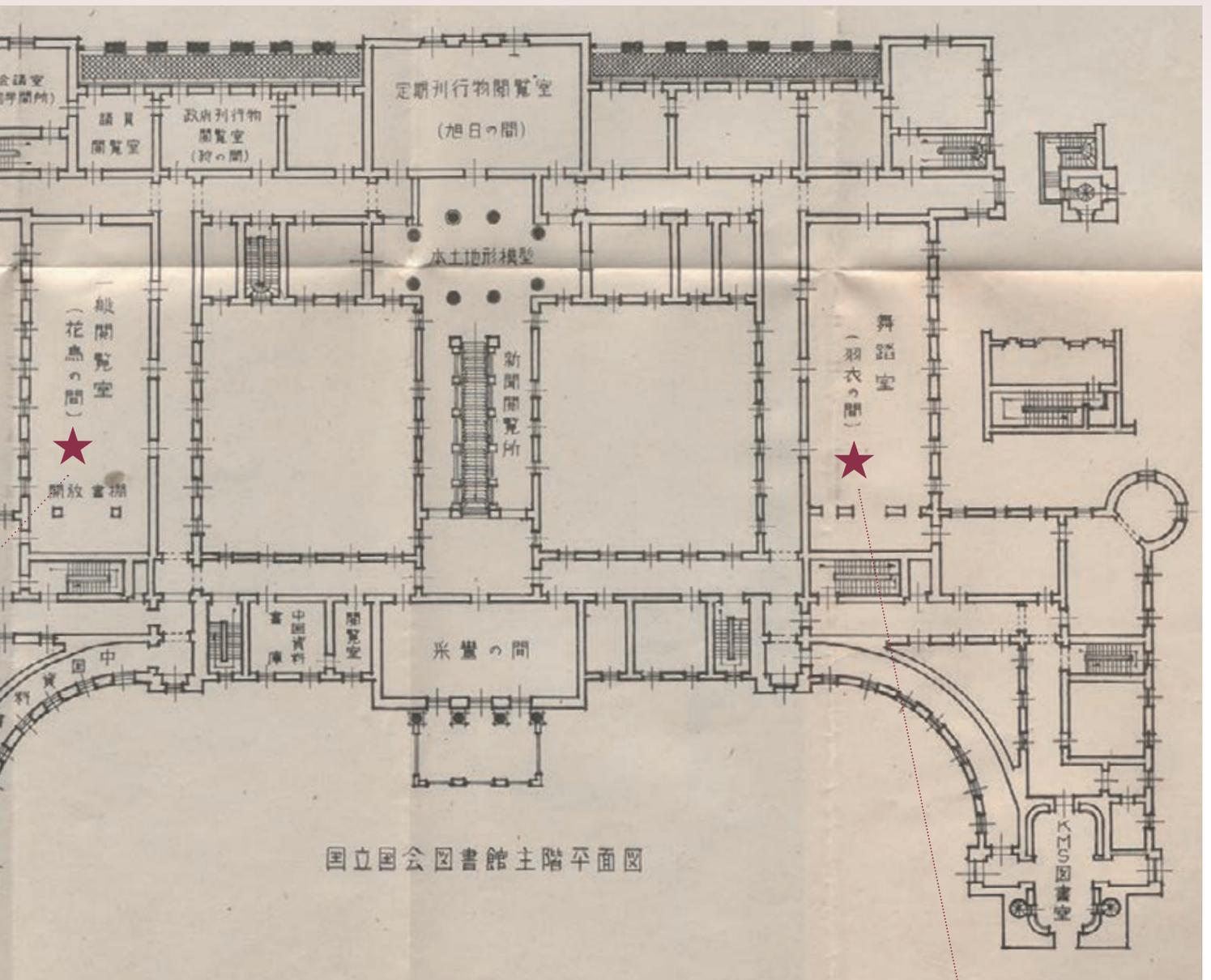
大阪毎日新聞社 編『答礼使御来朝記念写真帖 中巻』
大正 11 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/967729>

当時の赤坂離宮近辺の略図。最寄り駅は国電四ツ谷、都電若葉町一丁目。
国立国会図書館一般考査部 編『国立国会図書館利用のてびき 主として一般利用者のために』春秋会（国立国会図書館内）1954<請求記号 016.11-Ko5482k>（以下●印の写真はこの資料から採録）

赤坂離宮とは

- ・江戸時代、紀州徳川家の江戸中屋敷がありました。
- ・明治時代、洋風の東宮御所建設の気運が高まります。
- ・明治 32（1899）年着工、十余年の歳月と総工費 510 万円をかけて明治 42（1909）年に完成しました。
- ・建築の総指揮をとったのは片山東熊です。
- ・ネオ・バロック様式で地上 2 階、地下 1 階。鉄骨レンガ造り。外部はすべて花崗岩で覆われており、壁は厚いところで 1.8m、薄いところでも 50cm 以上、建物面積の約 3 割が壁とされています。





『国立国会図書館案内』より昭和 24 (1949) 年 2 月時点の平面図

羽衣の間



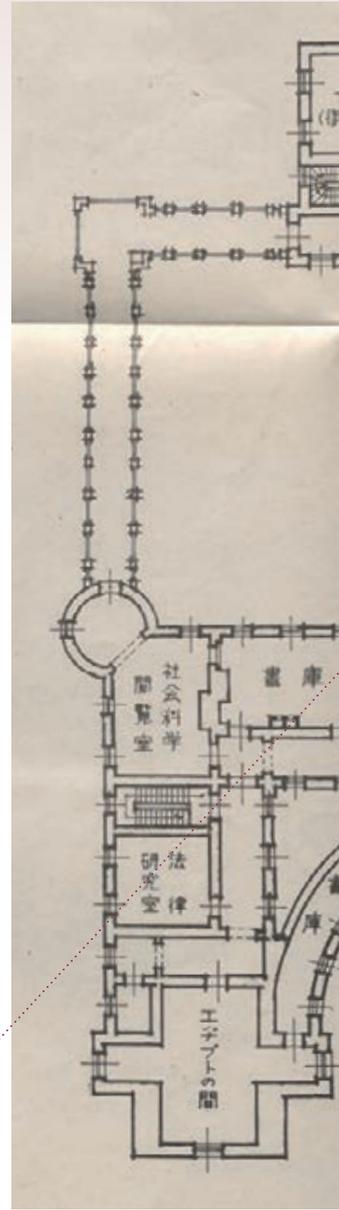
離宮時代は舞踏室でした。オーケストラ・ボックスがあるのが特徴です。残された写真では、展示会やレセプションが行われています。



鈴木隆夫第 2 代館長



離宮時代は大食堂でした。格天井にも、壁の楕円形の七宝にも花鳥が描かれています（七宝の下絵は渡辺省亭）。国立国会図書館時代は開架式の一般閲覧室でした。



花鳥の間

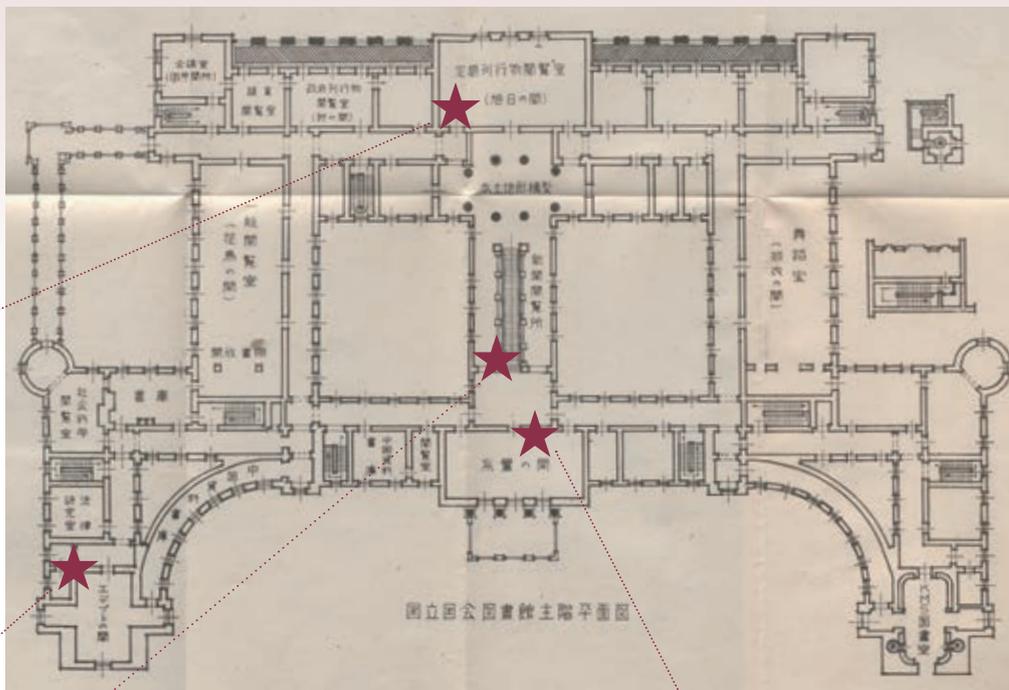


質素な夏服を着た心も姿も清潔な人々が蛍光灯のともしびの下で、身体を少し前かきみにして心を奪われたる人のように書物と組合つて居る。(略) ドアの外からひそかにこの姿を覗いてみるとたんに、私の全精神が緊張し、骨や筋肉が音をたててきしめくような気がする。(略) このように沢山な人が全精神をもつて生甲斐を発見して居るのを思うと、一切の不平は飛び去つて、自分の喜びを感じざるを得ない。

金森徳次郎「図書館人の鬼の相——我が三十二相（九）——」

真実とは何ぞや、トウルースとは何ぞや。(略) 我々はその真理を運搬するいわば車夫

金森徳次郎 開館十周年記念式典挨拶



階段



彩鸞(采鸞)の間



開館10周年記念式典であいさつする金森徳次郎初代館長

正面玄関真上の部屋です。離宮時代は「第二客室」と呼ばれていました。国立国会図書館時代はレコードコンサートなどの催しものが行われていました。





朝日（旭日）の間

離宮時代は「第一客室」とよばれ、謁見の間でした。天井に描かれた女神の背景に朝日があることから、この名前がつけました。国立国会図書館時代は、定期刊行物閲覧室として利用され、美しい壁紙や柱の間に雑誌の書架が所せましと並んでいます。



京都西陣製の紋ピロート織



エジプトの間

壁にはエジプトの風物が描かれるなど、近東風のデザインが施されている部屋です。離宮時代は食後の喫煙室でした。国立国会図書館時代は、公式の集会場として使われていたそうです。写真には、会合であいさつする金森館長や、レセプションに参加する人たちが写っています。



戦前には宮内職員として赤坂離宮に勤務した経験があり、戦後は同じ建物で国立国会図書館に勤めた職員は、「昔の赤坂離宮を回想すると（略）饗宴の後、人々は喫煙室であるエジプトの間に集まり、香り高いシガーの紫煙、かぐわしい珈琲の匂いの中にハイソサエターの交歓が行なわれます。」「それから幾星霜、国立国会図書館の一員となった私はその時エジプトの間におりました。／眼に映るこの客間は色あせたと見え天井のシャンデリアも、窓のステンドグラスも、壁画も、そして床の寄木も昔の面影を残しております。／しかし、今ここにいる人たちは昔の階層とは全く違った階層の人々で」とその変化に驚いています。

河内巖「赤坂時代の追憶」『国立国会図書館月報』120号 1971.3<請求記号 Z21-146>

『写真公報』3巻
20号 大蔵印刷
局 1956.10<請
求記号 Z23-37>
(以下▲印の写
真はこの資料か
ら)





「かねて覚悟はしていたもののまったく迷宮だ。さきほどの電話で教えられたとおり玄関を入つたことは入つたのだが、廊下の曲り方をまちがえてね。さんざんうろついたあげくやつとたどり着いた仕未さ。」

佐藤達夫「宮殿の法令工場」『旬刊時の法令解説』18号 4月3日 1951.4<請求記号 Z2-50>



英文学者由良君美は、若き日に、当時は新着洋書閲覧室であった「狩の間」を利用した思い出をこう語ります。

「ここ「狩の間」は、まだ冷戦が始まる前の、民主主義という言葉がそれだけで美しい未来を暗示する呪文でありえた、今では考えられない記念すべき一時代の姿が、書物の選ばれ方となって現象した小宇宙だったのだ。(略) 静かで、豪奢で、食欲をそそる知的対象が、ひとりで読むには果てしないほど充満した空間だった。わたしは夢中になって読み、帰るのが辛かった。それほど当時の自分の身の貧困さと、この部屋との間には遠い遠い距離があった。」

由良君美「消えた三つの至福の部屋」『みみずく偏書記』筑摩書房 2012<請求記号 US61-J179>



「聞くところによれば閲覧者を呼ぶために図書館の宣伝をハトバス観光のルート内に入れて参観させ……当時、入館者が二四〇名ぐらい、参観者が四〇〇名以上はあったと記憶しております。」

横川兵吾「茫々二十有余年」『国立国会図書館月報』151号 1973.10<請求記号 Z21-146>

「参議院調査部から国会図書館への移籍組の一人として、机や椅子を満載したトラックと共に、ほとんど無人に等しかった赤坂離宮に乗り込んだのは、昭和二三年の三月だったと思う。ベッド、バス、机、椅子等の調度品もほとんど手つかずだった赤坂離宮は、戦後の荒廃下に暮していた当時のわれわれには、全くお伽の館をみるようで、あちこちの部屋を覗いて廻り、挙句は、屋根裏（両側に丸太の手摺を持った幅一米余の板の廊下があった）にまで昇った。そして各自が気に入った部屋を占拠し、机や椅子を運び込んだ。しかし、そんな期間はほんの数日で、ここは館長室、ここは会議室等と決められ始め、追い立てを食ってしまった。」

勝原文夫「調査局に調査マンとして生きて」『国立国会図書館月報』313号 1987.4<請求記号 Z21-146>



中井正一「生まれ変わった赤坂離宮」

赤坂離宮にできた国立国会図書館も、遠い遠い、人間の血汐のなかにそだつてきた、言葉のもつ大きなつとめをせおつて、日本の戦いへのかぎりない悔いのしるしとして立ちあがったのである。

「館長は時々私共に言われました。国立国会図書館はあなた達のお蔭で無から有が生まれたよ、と。感激でした。」

岡田温「斯くて国立国会図書館は生まれ出た」『国立国会図書館月報』329号 1988.8<請求記号 Z21-146>



執務中の中井正一初代副館長。昭和25年。

1948年、発足直後の当館を援助するために来日したロバート・B・ダウズ米国イリノイ大学図書館長と職員。中央のダウズの向かって左に金森館長、右に中井副館長。金森の左、一人おいた女性は当時ダウズの通訳をつとめていた福田なをみ。

画像提供：University of Illinois Archives
<https://archon.library.illinois.edu/index.php?p=digitallibrary/digitalcontent&id=12690>



新年度の予算では、(略)私も夜半まで皆の帰るのをただ一人待つ日が多かった。赤坂離宮の全館に一人いない夜、ただ二人(宿直は二人いるが)待つっていると、しみじみ自分の肩に荷なっているものの重さを感じ、ここに自分の命を捨てるのだという思いが、切々として迫ってくるのであった。

中井正一「国会図書館のころ」



永田町庁舎の懸賞建築設計・応募作品の審査
(右が金森館長)



永田町庁舎への移転作業



◆参考文献

渋川驍「深紅の絨緞を伝つて—国立国会図書館中央館(旧赤坂離宮)点描」『読書春秋』3巻6号 1952.6<請求記号 Z21-155>
 福田恒存「国立国会図書館」井上友一郎 編『東京通信』黄土社 1954<請求記号 915.9-1467>
 吉国一郎「赤坂離宮にいた頃〔内閣法制局〕」『時の法令』700・701号 1970.1<請求記号 Z2-50>
 古田裕繁「迎賓館赤坂離宮の紹介 Q&A」『Estrela』66号 1999.9<請求記号 Z24-B120>
 児島由美子「赤坂離宮の室内装飾の調達・製作実態」『日本建築学会計画系論文集』603号 2006.5<請求記号 Z16-107>

◆引用出典

金森徳次郎「図書館人の鬼の相——我が三十二相(九)——」『読書春秋』4巻9号 1953.9<請求記号 Z21-155>、「開館十周年記念式典」『国立国会図書館三十年史 資料編』国立国会図書館 1980<請求記号 UL214-7>、中井正一「生まれ変わった赤坂離宮」中井正一 著、中井浩 編『論理とその実践 組織論から図書館像へ』てんびん社 1976(第2版)、「国会図書館のこのごろ」『中井正一全集 第4巻(文化と集団の論理)』美術出版社 1981<請求記号 K25-59>

◆背景帯の出典

イラスト AC <https://www.ac-illustr.com/>

図書館協力課研修交流係は、図書館員の方向けの各種研修を担当しています。といっても自分が教えるわけではありません。たとえば当館に集まって受ける「レファレンスサービス研修」なら、企画、広報、各種連絡、資料印刷、座席には当日使うパソコンを並べ、廊下には会場への誘導サインを立て、受付ではニッコリ出迎え、質疑ではマイクを持って走り……等々。裏方ながら、各地の図書館の方とお会いできるのが毎回の楽しみでした。

ところが2020年春のこと。ご存知のコロナ禍で、準備していた研修は次々中止。次の研修の企画を立てようにも、集まること自体がためらわれる状況にしばし頭を抱えました。大学でオンライン授業が始まったという話をちらほら耳にするようになった頃、レファレンスサービス研修も、ともかくオンライン開催に舵を切ることになりました。

なにしろ初めての取り組みです。触ったこともないオンライン会議ツールで、まずはマイクとカメラの使い方から練習。講師を務める職員は東京本館、運営を行うこちらは関西館からの接続。参加者の姿が見えないのも不安です。当日ありうるトラブルは何か、質問はどう受け付けるか……リハーサルを繰り返すかたわら、ハウツー本を読ん

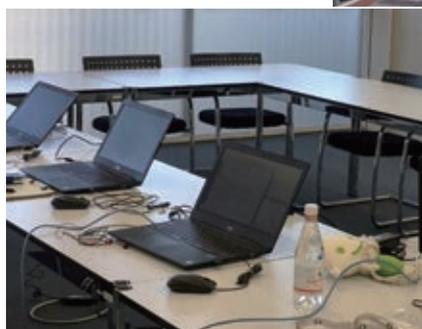
だり、他機関のオンラインイベントを体験してみたり、手探りの日々が続きました。幸い当日は大きなトラブルなく終わり、参加者にも好評でした（ホッ）。

ところで最近、レファレンスサービス研修が始まった頃のことを知る機会がありました。2003年度、当時の名前は「レファレンス研修」です。当時の担当者は文献で下調べをし、研究者にご意見を伺い議論を重ねて、一から企画を練りました。申込み受付がFAXと郵送だった時代ですから、運営も大変だったでしょう。研修名もプログラムも、それから変更を重ねていますが、歴代担当者はやはりその時々で一番よい方向を目指し試行錯誤してきました。

そういう大きな流れから見ると、この2年の悪戦苦闘も、時代にあわせた変化の一部といえます。みずから選んだというよりコロナ禍に迫られての決断ですが、オンライン開催という新しい試みの生まれる場面に居合わせたのは結果としてドラマチックな体験だったのかもしれない。とはいえ、他の図書館の皆さんに会える、集まる研修のほうも、やっぱり恋しい担当者なのでした。

（図書館協力課 研修交流係 交流もしたい）

Before



After

オンライン研修までの道のり



旧蔵者は誰?!

第6回

あの人の蔵書

松平慶民の蔵書

曾木颯太郎



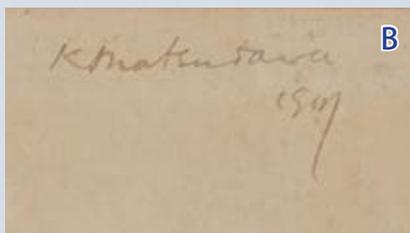
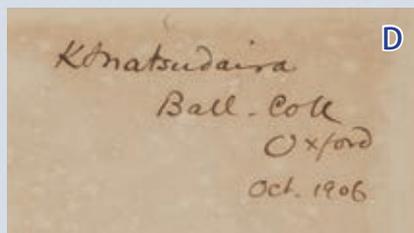
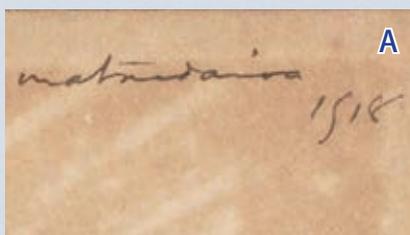
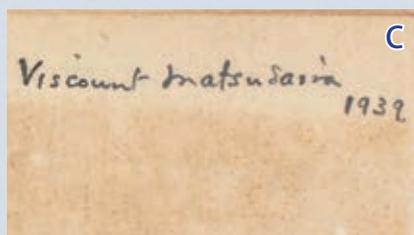
国立国会図書館は、1940年代後半から1950年代前半の新刊洋書の購入が困難な時期にも、主に寄贈や移管といった手段により洋書の収集を続けてきました⁽¹⁾。その一部(請求記号が「特28」～「特41」で始まるもの)は旧蔵者別に整理されています⁽²⁾。満鉄調査課長を務めた佐田弘治郎(1875-1952)⁽³⁾のソヴィエト関係の旧蔵書(「特30」で始まるもの)⁽³⁾や大蔵官僚・貴族院議員だった井川忠雄(1893-1947)の旧蔵書(「特31」で始まるもの)⁽⁴⁾など旧蔵者を確認できる資料がある一方、刊行物等でも詳しく取り上げられず、はっきりした経緯が分からないものもあります。

請求記号が「特38」から始まる資料群についても、「松平」とのみ記されている参考文献⁽⁵⁾があるくらいで、旧蔵者についての情報は明らかではありませんでした。この資料群は英語の書籍約200冊とドイツ語・フランス語・ラテン語の書籍数冊から成ります。タイト

ルを見てみると20世紀初頭の英国で行した小説類が多く、加えてナポレオンなどの西洋の偉人伝、インテリアの本、日本に関する洋書などもあり幅広い分野にわたっていることが分かります。

これらの本を手にとってみると多くの書き込みがあることに気づきます。多いのは「matsudaira」と「[viscount matsudaira]」(＝松平子爵)と書かれた本もありました(C)。さらに同じ筆跡で名前だけではなく「Balliol, Oxford」(＝オックスフォード大学ベイリオル(ペリオル)カレッジ)という書き込み(D)も見受けられます。

こうした痕跡をまとめていくと一人の人物が浮かび上がります。終戦直後に宮内大臣を務めた松平慶民(1882-1948)⁽⁶⁾です。「特38」の資料群は松平慶民の旧蔵書だったと考えられるのです。



松平慶民肖像
福井市立郷土歴史博物館所蔵

A *The voice of Japanese democracy; being an essay on constitutional loyalty*, by Ozaki Yukio, M. P.; tr. by J. E. de Becker, D. C. L.; with an introduction by Marquis Ōkuma Shigenobu, Kelly and Walsh, Ltd., 1918<特 38-044>

B *Tales of old Japan*, with illustrations drawn and cut on wood by Japanese artists, by Algernon Bertram Freeman-Mitford, Macmillan, 1915<特 38-068>

C *The book of tea*, by Kakuzo Okakura, with introduction and notes by Hiroshi Muraoka, Kenkyusha, 1939<特 38-031>

D *The complete golfer 7th ed*, by Harry Vardon, Methuen, [1906]<特 38-0159>

※ <> 内は当館請求記号 (以下同)。

松平は福井藩の16代藩主松平慶永(春嶽、1828-1890)の息子として1882年に東京で生まれます。学習院で学んだ後、イギリスに渡りオックスフォード大学ベイリオル・カレッジに進学します。この間、1906年には父慶永の勲功により子爵に叙されます。帰国後は長く宮内省に勤め、大正天皇の侍従や式部官を経て、式部長官や宗秩寮総裁を歴任しました。終戦直後の1946年1月には宮内大臣(宮内省改組後は宮内府長官)に就任し、戦後の皇室を支えます。そして職を辞した1948年に死去しました。

松平は華族・皇族を問わず毅然とした態度で接したことにより知られています。後に侍従長となる入江相政(1905-1985)は、皇族であっても正当な理由があれば物怖じせずに苦言を呈したエピソードを引き、その「天衣無縫の、人を人とも思わない、颯爽たる風格」を回顧しています⁽⁷⁾。その一方で、長い英国暮らしから英語に堪能で英国の事情に通じ、英国紳士の風格も持ち合わせていたともいいます。宮内官僚として皇太子の外遊を言した

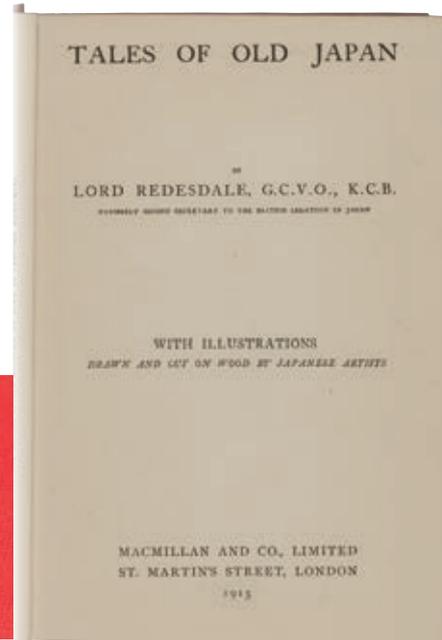
ほか⁽⁸⁾、秩父宮雍仁親王の英国留学や英国王ジョージ6世の戴冠式出席といった皇族の洋行にもたびたび随行しています。英国仕込みのテニスやゴルフ、ヨットに打ち込んだスポーツマンでもあり、軽井沢の外国人テニスクラブには日本人として最初期に入会しています⁽⁹⁾。

そんな松平の旧蔵書と目される資料群が当館に受け入れられた経緯は、今となつてははっきり分かりません。当館との関わりで判明しているのは1948年の開館式に宮内府長官として出席していることくらいです⁽¹⁰⁾。

長い間注目されることのなかったこれらの本は一見雑多な印象を受けます。けれどもその中には『くまのプーさん』⁽¹¹⁾の原書があり、SF小説があり、英国の人気作家P・G・ウッドハウス(1881-1975)のユーモア小説がありと、本人の趣味と当時の流行が伝わってくるものです。留学経験に裏打ちされた幅広い洋書の数々からは旧大名家に生まれ育ち、宮中で重職を務めた謹厳な姿とは少し異なる意外な一面が見て取れます。

日本関係資料

表紙に描かれた模様



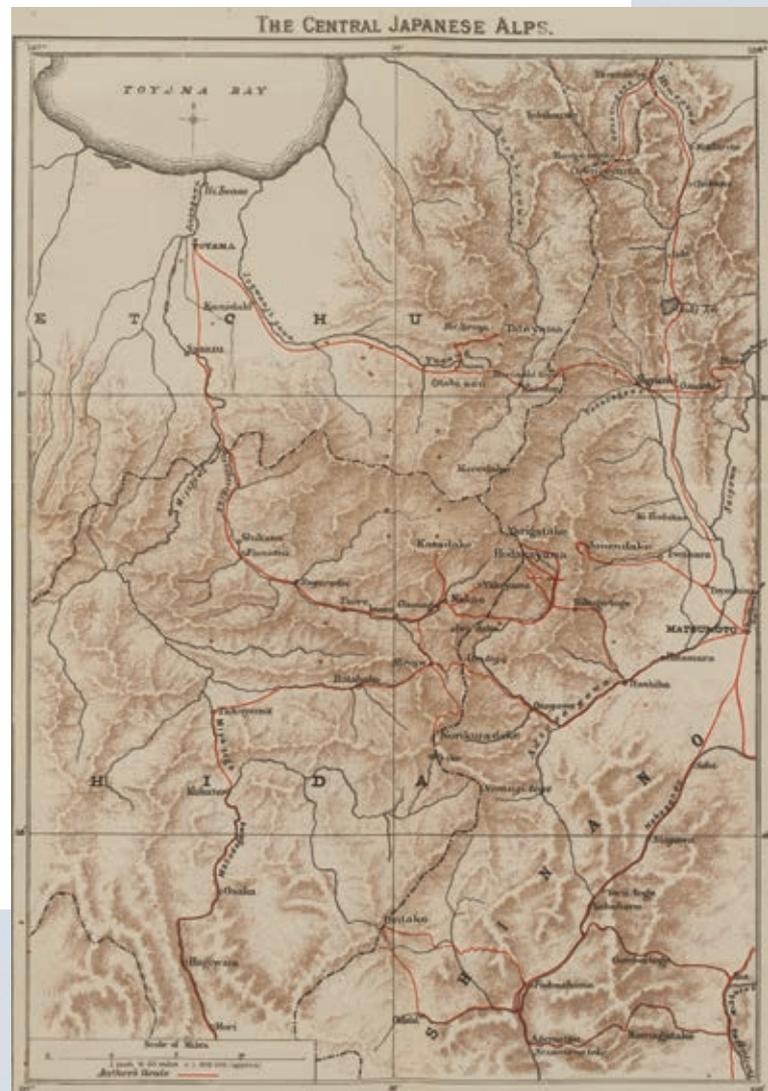
■ *Tales of old Japan*, with illustrations drawn and cut on wood by Japanese artists, by Algernon Bertram Freeman-Mitford, Macmillan, 1915< 特 38-068>

著者のリーズデール卿アルジャーノン・B・ミットフォード（1837-1916）は外交官として幕末維新期の日本に駐在して日本の文化・風俗を西洋に紹介したことで名を残し、また数奇な生涯を送った6姉妹の祖父としても知られる人物です。本書は日本に古くから伝わる物語を英訳して収録したもので、初版は1871年に刊行され「赤穂浪士の討ち入り」を西洋に紹介した初期の例とされます¹²。

■ *Mountaineering and exploration in the Japanese Alps*. By the Rev. Walter Weston ... With maps and 35 illustrations, J. Murray, 1896< 特 38-0181>



イギリスの宣教師で日本での登山の普及に貢献したウォルター・ウェストン（1861-1940）による日本アルプスの登山記です。『日本アルプスの登山と探検』¹³の題で邦訳もある本書は19世紀末の浅間山や槍ヶ岳といった日本の山々の光景だけでなく、そこに暮らす人々の様子も生き生きと描き出しています。



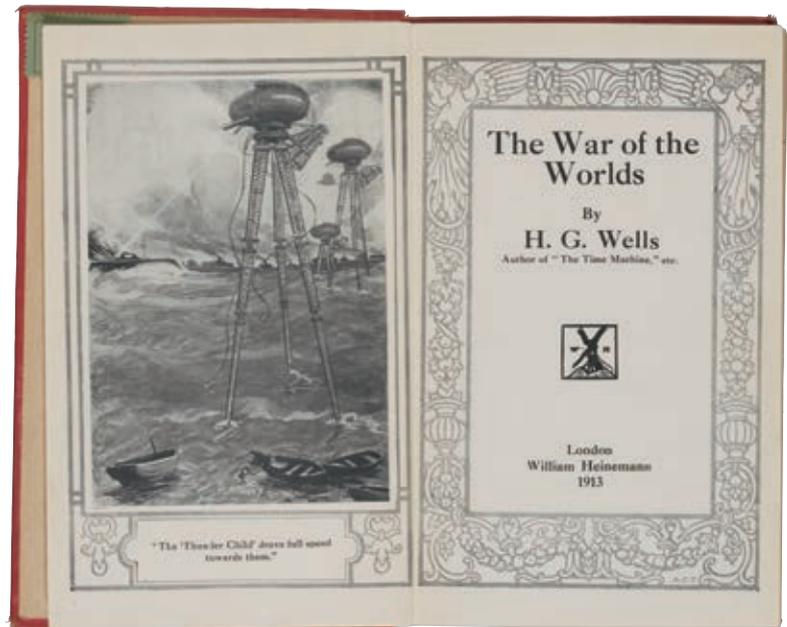
SF小説

H・G・ウェルズ（1866-1946）の執筆したSF小説の古典『宇宙戦争』の原書で Sevenpenny Net Novels という廉価版の1冊です。印象的な挿絵は画家・デザイナーのグラハム・シモンズ（1887-1943）の手によるものでカバー装画としても使われました。特 38 には本書も含めて7点のウェルズ作品が含まれており、同時代を代表する作家であったウェルズの人気を改めて知ることができます。

背表紙の一部

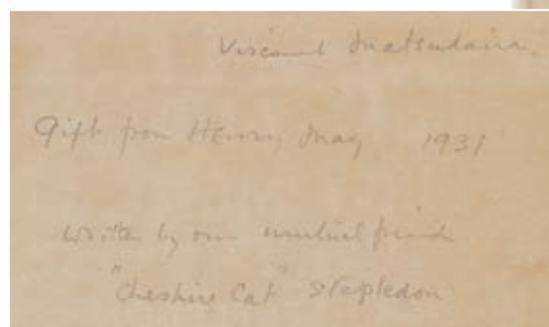
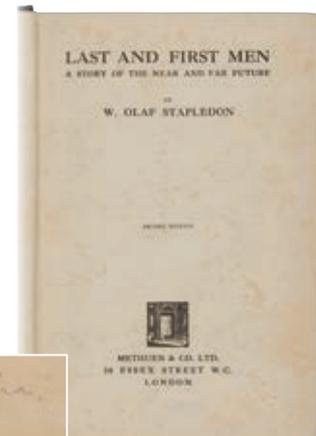


■ *The war of the worlds*, by Herbert George Wells, W. Heinemann, 1913< 特 38-0176>



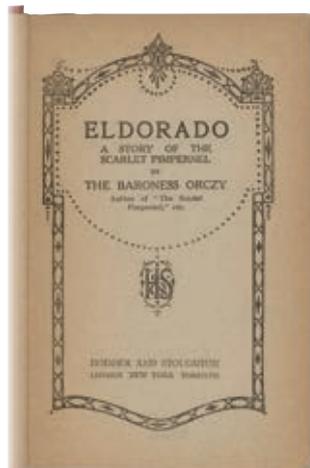
■ *Last and first men; a story of the near and far future* [by] W. Olaf Stapledon, Methuen, [1931]< 特 38-0120>

1930年に書かれた20億年先の未来までを描く思弁的なSF小説で『最後にして最初の人類』¹⁴として邦訳されているほか、近年映画にもなりました。興味深いことに見返しには“write by our mutual friend “Cheshire Cat” Stapledon”という書き込みが見られます。著者のオラフ・ステーブルドン（1886-1950）の伝記によれば、松平とはベイリオル・カレッジの同窓であり、親しい関係にあったといえます¹⁵。



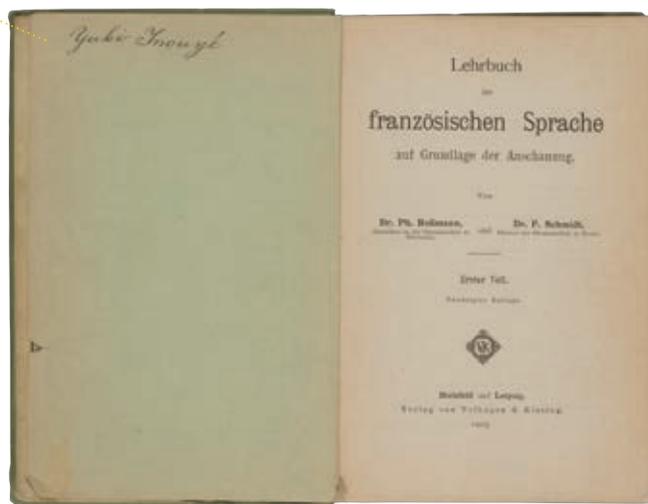
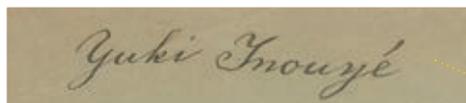
■ *Eldorado : a story of the Scarlet Pimpernel* / by the Baroness Orczy, Hodder and Stoughton, [1913?] <特 38-038>

冒険小説



フランス革命下でフランス貴族を救出しようとする英国貴族の活躍を描いた冒険小説『紅はこべ』(the Scarlet Pimpernel) シリーズの1冊です。ハンガリー出身の女性作家オルツイ(1865-1947)の執筆した本シリーズ第一作(1905年刊)は英国ではベストセラーとなり、作品をもとにしたミュージカルが日本でものちに宝塚歌劇団によって上演されています。こうした当時人気を博した冒険小説やスパイ小説があるのも本資料群の特徴です。

教科書



ドイツ語で書かれたフランス語の教科書です。“Yuki Inouyé”という署名が読み取れます。松平慶民夫人の幸子(1891-1948)は外交官で駐独大使を務めた井上勝之助(1861-1929)の養女であり、もともとこの蔵書だった可能性があります。

■ *Lehrbuch der französischen Sprache auf Grundlage der Anschauung*, von Ph. Rossmann und F. Schmidt 20. Aufl, Verhagen & Klasing, 1903 <特 38-080>

body well towards the direction in which he wants to go (a stance a little more open than that for the mashie shot); take the club up fairly straight to the top of the swing, and bring it down vehemently into the sand an inch and a half or two inches behind the ball, throwing his body slightly forward and nearly all his weight on to the left leg at the moment of the stab. He need not worry at all about nicety of touch—that is, when he is really badly bunkered. The club should not come into contact with the ball at any part of the stroke. The player must determine to make a mighty cleft in the sand—or whatever the substance may be—behind the ball, whereupon the latter will be forced out of its ensconced position and often hurled a considerable distance. Do not trouble about a follow-through. The effort should finish with the club-head buried in the bunker. All that you are trying to do is to create such a disturbance at the back of the ball as will cause that



ゴルフ

■ *How to play golf 4th ed*, by Harry Vardon, Methuen, [1912]<特 38-0160>

ハリー・ヴァードン(1870-1937)は全英・全米オープンで7度の優勝を誇るプロゴルファーであり、本書は自身によるゴルフの教本で、プレースタイルの写真が多く掲載されています。松平は1901年頃にポーツマスでプレーし、最も早くゴルフを始めた日本人の一人と考えられています¹⁶。特 38にはヴァードンの著書を含むゴルフ関連の本が複数あり、ゴルフへの関心がうかがえるでしょう。

■注

- 1 当館における1960年代までの洋書収集の歴史と特色ある資料群については齋藤ひさ子、辻佑果、曾木颯太郎「洋書を追いかけて(前編)帝国図書館時代、洋書はどのように集められたか」『国立国会図書館月報』726号 2021.10 pp.5-15<Z21-146>を参照。
- 2 陶山国見「蔵書構成の実態調査およびその評価計画について」『図書館研究シリーズ』16 1974.12 p.56<Z21-127>;国立国会図書館百科編集委員会編『国立国会図書館百科』出版ニュース社 1988 p.91<UL214-E4>では「個人コレクション等」と総称されています。
- 3 国立国会図書館百科編集委員会 前掲書 p.319
- 4 同上 p.316
- 5 陶山 前掲論文 p.56
- 6 一般に「よしたみ」と読まれますが、オックスフォード大学の名簿などでは「Keimin」と記されています。
- 7 入江相政「最後の宮内大臣」『文芸春秋』38巻2号 1960.2 p.270<Z23-10>
- 8 波多野勝 著『裕仁皇太子ヨーロッパ外遊記』草思社 1998 p.21<GK132-G35>
- 9 鳴海正泰 著『テニス明治誌』中央公論社 1980 p.108<FS35-299>
- 10 国立国会図書館 編『国立国会図書館三十年史』国立国会図書館 1979 p.62<UL214-7>
- 11 本書については齋藤史「今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から くまのプーさん 20世紀初頭の子どものための物 [A.A.ミルン作]」『国立国会図書館月報』587号 2010.2 pp.2-3<Z21-146>も参照。
- 12 川内育子「欧米における「忠臣蔵」のイメージ形成 大石内蔵助の人物描写について」『国際日本文学研究集会会議録』39 2015 pp.39-53<Z42-86>
- 13 邦訳としてはウェストン 著、青木枝朗 訳『日本アルプスの登山と探検』岩波書店 1997<GC117-G31>など。
- 14 邦訳としてはオラフ・ステープルドン 著、浜口稔 訳『最後にして最初の人類』国書刊行会 2004<KS171-H117>
- 15 Crossley, Robert *Olaf Stapledon: Speaking for the Future* (Syracuse University Press, 1994) p.68
- 16 撰津茂和 著『ゴルフ物語』角川書店 1960 跋 p.301<783.8-

Se199g3>;草柳大蔵「昭和の挑戦 -11- アメニティ・碧眼録 -2-」『中央公論』106巻11号 1991.11 pp.431<Z23-9>によれば神戸ゴルフ倶楽部の初期の日本人会員でもありました。同倶楽部については益本禎朗「今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から INAKA 山と遊んだ居留外国人たち」『国立国会図書館月報』730号 2022.2 pp.1-5<Z21-146>も参照。

■全体に関わる参考文献

学習院大学史料館 編『旧華族家史料所在調査報告書 本編 4』学習院大学史料館 1993<GB5-E106>
霞会館華族家系大成編輯委員会 編『平成新修旧華族家系大成 下巻』霞会館 1996<GB43-G33>
福井県 編『大正昭和福井県史 下巻』福井県 1957<214.4-H7872t>

■資料の利用について

現在特 38の資料群は関西館で所蔵しています。国立国会図書館オンラインの詳細検索画面で請求記号欄に「特 38*」と入力し、所蔵場所欄で「関西：総合閲覧室・書庫」、本文の言語コード欄で英語・ドイツ語・フランス語・ラテン語をそれぞれ選択して検索することができます。一部資料は国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能です。

■関連資料

松平は松平春嶽関係の資料を継承しており、生前は自邸で春嶽公記念文庫として保存していました。現在はこれらの大部分が福井市立郷土歴史博物館の福井市春嶽公記念文庫に、一部が徳川林政史研究所にそれぞれ収蔵されています。また、複製本類は越前史料として国文学研究資料館が所蔵しています(三上一夫 著『幕末維新と松平春嶽』吉川弘文館 2004 pp.206-207<GK81-H22>)。

当館憲政資料室では上記春嶽公記念文庫の一部資料の複製マイクロフィルム「松平春嶽関係文書 (MF1:福井市立郷土歴史博物館蔵)」を所蔵しています。また、別に松平慶民文書として「大正十年東宮御渡吹二閑スル文書写」(資料番号1324)を所蔵しています。「憲政資料室収集文書」の目録についてはリサーチ・ナビの次のページをご覧ください。

「憲政資料室収集文書」(<https://mavi.ndl.go.jp/kensei/entry/kennseishiryoushitsuushuumonno.php>)

※背景の典拠: Paper-co <https://free-paper-texture.com/free-blue-paper-texture/>

国立国会図書館で働いています

Season2

no.9

利用者サービスがしたいのは、いろんな人と接するのが面白いからです



資料情報課展示係長として、どんなお仕事をされていますか。
児童書ギャラリーで常設展示の管理と、本のミュージアムでの展示会の運営。あと、国際子ども図書館の電子展示会の担当をしています。

国際子ども図書館の展示関係全部ということですか？

各部屋の小展示は、各部屋担当なので、大きな展示担当という感じですか。

展示って年に何回もありますよね。

国際子ども図書館の資料展示がしたい年2回くらい。ほかの機関の資料を使った展示が年に1〜2回くらいです。最近はコロナであまりできてなかったのですが、3月末に始まる展示が約1年ぶりの展示になります⁽¹⁾。資料を使った展示ではなく、建物を紹介するものなので(内部では)「建物展」と言っています。

もともと児童書が好きと聞きましたが、せっかく国際子ども図書館

の展示係に異動できたのに、コロナであまり開催できなかったのは寂しかったですか？

そうですね。ただ、展示会の準備って企画展示の場合は1年前から動いていて、コロナの前だと常に3本(展示が)走っているような勢いで、本当に激務だったので。今予定しているペースの方がじっくり取り組めるかもしれません。

今後、外国語の児童書展が予定されているとか。

はい。本当は去年の秋に開催する予定だったんですけど、今年の秋に開催します。

その次も決まっているんですか？

これから詰めていきますが、だいたい決まっています。お楽しみに。

展示の作業で楽しいのはどういうところですか？

今まで児童書が好きでいろいろ読んでいる方だと思ってたんですけど、

中島 美奈 国際子ども図書館 資料情報課 展示係長

平成21(2009)年4月 関西館 電子図書館課 ネットワーク情報第二係
平成23(2011)年10月 関西館 文献提供課 参考係
平成27(2015)年4月 京都府立図書館
平成29(2017)年4月 利用者サービス部 サービス運営課 サービス管理係
令和2(2020)年4月 国際子ども図書館 資料情報課 展示係
令和3(2021)年4月 国際子ども図書館 資料情報課 展示係長

※令和4年3月4日インタビュー実施

資料を選定しているときに、やっぱり知らない本がたくさんあって。古いのもそうなんですけど、新しい本もどんどん出てくるので、たくさん知らない本があるというのが楽しくて。書庫では受け入れた年ごとに分けていくんですけど、1年でものごいたくさんの本が並んでいるのを見ると、全然知らない本があるなって驚きます。
国際子ども図書館には詳しい方がた

(1) <https://www.kodomo.go.jp/event/exhibition/tenji2022-01.html>
現在、展示は終了しています。

くさんいるので勉強になります。井の中の蛙みたいな。途方もないなって思いますね。

なるほどー。展示を見に来た人の反応はどうですか？ じかに話しかけられたりとか？

懐かしい絵本に出会えましたとか、建物がいいですねとか、うれしいですね。常設展示の部屋（児童書ギャラリー）は昔は特別閲覧室として使われていて、天井に漆喰できれいな模様が入っています。私は入館する前から国際子ども図書館の建物がすごく好きだったので、建物展を担当できるのはちょっと運命的だなって（笑）。

それはよかったですね。新たな発見とかありますか？

全然知らなかったことがけっこうありましたね。ただただきれいだなって思っていたものが、こういう由来があったのか、みたいな。国際子ども図書館に改修したときの工事の様子を記録した映像があります。帝国図書館時代の意匠を復元するために、漆喰を職人さんがきれいにした

のですが、漆喰職人のベテランから若手へ技術の伝承が行われたらしいです。これだけ大規模に漆喰をやる機会ってなかったらしくて。

◆ ◆ ◆
最初の配属は電子図書館課でしたね。

WARP、国立国会図書館インターネット資料収集保存事業っていったってウェブサイトを保存する事業を担当していたんですけど、面白かったですね。ちょうど東日本大震災が起こって、ひなぎく（東日本大震災アーカイブ）のもとになるような、震災のとき刻々と変わる自治体のホームページを収集するぞっていう時でした。

大変意義深い仕事ですよ。

でも利用者サービスがしたくて、当時、京都府立図書館とか大阪府立図書館とかが出向先であると聞いたので、じゃあそれやりたいです！って手を挙げました。そしたらまずは文献提供課に異動になって。利用者対応と、あと電話レファレンスもやっていました。

楽しかったですか？

関西館の総合閲覧室って、東京本館みたいに分野で部屋が分かれていなくて、カウンターに座っていると、全分野について聞かれる。「ほかのお部屋へ」とかないので、そこで全部解決しなきゃいけないって（笑）、がんばりました。

でもいろんな人と接するのが楽しい？

利用者サービスがしたいのは、人が面白いからっていうのがあります。

この人ってこんな本探してるんだ、という驚きでしょうか？

そういうのもありますし、本当にいろんな人がいるんだなっていうのがじかでわかるので。

うまく通じなかったな、とか苦勞もないですか？

それも含めて面白いですね。

京都府立図書館は府立とはいえ、国立国会図書館（以下、NDL）より小規模ですよ。なんでもかんでもやる、という感じでした？

まず意思決定が速いのに感動しました。誰か著名人が亡くなったら、その日のうちにその人の訃報、追悼コーナーができる、みたいな。

2年いたんですけど、1年目は閲覧



（上）今年の秋に展示会開催予定の本のミュージアム内、エディキュールの前で（前ページの写真も同様）。（下）同部屋の円塔内部。



児童書ギャラリーにも美しい漆喰の天井が。

系の部署、2年目は地域振興という部署にいて、京都府が主催している児童書のイラストコンテストとか、京都図書館大会の事務局をやったりしました。京都府内の図書館の連絡協力車、ある図書館の本を、持ってない別の図書館に運ぶ車が日々走っているんですけど、それに一緒に乗せてもらって。何かお困りのことではないですか、最近どうですか、みたいなことを聞きに行きました。

営業さんですね。

あと楽しかったのは、ししょまろは⁽²⁾。自己学習グループで、webでリンクトオープンデータに挑戦したりとか、wikipediaの項目を増やそうっていうイベントをやったりとか。オープンデータになるように、没年がわからない人の没年を調査しよう！っていう「没年調査ソン(没

年を調査+マラソンの造語)」というのをやりました。

へえ〜。休みの日にやるわけですよ？

そうですね。京都の食べ物が出てる本というテーマで、休みの日に本に出ってくる京都のお店に行ったりしました。

純粋に楽しいところから始めて知識とかデータが増えていくのはいいですね。

◆ ◆ ◆
◆ ◆ ◆
どうしてNDLを知ったんですか。

もともと名前だけは知っていました。私、京都の大学出身なんですけど、NDLの採用説明会どこでやるかなって調べていたら、最初に出たのが神戸の大学だったので、ギリギリ行けなくもなくなって聞かせる友達が、今度NDLの採用説明会、うちの大学でやるみたいよって。じゃあ行こうかなってまた聞きに行き。

え、そんな何回も!?

そしたら今度自分の大学でもやるっていうので聞きに行き……で、私、3回説明会聞きに行っているんです(笑)。

すごい熱心(笑)。で、結局ここに就職した。はい、ご縁があったということ。

もともと大学では何をされていたんですか?

行動心理学ってあって、「高校生の読書行動を増やす」を卒論のテーマにしました。心理学でメジャーなのはカウンセリングとか臨床心理学だと思っんですけど。行動心理学は、心で目に見えないよね、見えなから目に見えている行動を観察することで心を理解しようっていうものなんです。子どもが泣いてるときに、お腹が空いているんだったらご飯をあげたらいいし、寂しくて泣いているんだったら抱きしめてあげるとか。本人じゃなくて周りを変える、みたいな感じの方が行動心理学です。

「高校生の読書行動を増やす」というのは、何を変えると増える?

最初はただただ今週の本を読みましたって言うって、ただそれを記録するだけ。途中から、それを言われたら、「その本、私も読みましたよ」とか「面白いですね」とかフィードバックをする、というのをやると、読む量が増えるんです。

へええ！ そういうテーマを選んだということは、やっぱり図書館で働きたいというのがあったんですか?

昔から思っていたので。就職の面接のときに有利だなと(笑)

すごい戦略ですね。小さいときから図書館希望ですか?

そうですね、小さいときから本に関わる仕事がしたいとは思っていませんね。

でも図書館情報学科には行かなかったんですね。

むしろ、今後やらないだろうなってことをやっておきたいなって。アルバイトでも、販売の仕事や、歯医者さんの受付のお仕事をやったりと

(2) <http://libmaro.kyoto.jp/>

か、冷凍のお弁当を詰める仕事を
やったりしました。

けっこうチャレンジングですね。

マイナス2℃の世界です(笑)。着
込んでマスクして給食当番みたい
なエプロンつけて、立ち仕事で5時間、
6時間やっていました。

販売だったらいろんな人と接しま
すね。

京都ならではのお菓子屋さんでバイ
トしてました。その時気付いたん
ですけど、私、販売の仕事向いてない
なって思いました。

え、そうなんですか。

接客はいいんですけど、人にものを
薦めるのが苦手だなと思って。こ
ういうのがほしいなって言ってくれた
ら、こういうのがありますよって言
えるんですけど。

まさにレファレンスですね。そうい
う意味では展示はおすすめるするこ
とじゃないですか。

なのでけっこう毎度迷いますね。私、

これがいいと思ってるけれども
みんなはそう思っているとは限らな
い、と思って。

ところで、思い出に残る児童書はな
んですか？

子どもの時に読んで、大人になって
再度はまったのがムーミンです。小
学校か幼稚園の時にキャラクターだ
け知っていました。近くの図書館に
行ったときに、ムーミンの本があっ
て、なんかこれ見たことがあるやつ
だなと思って、借りて読んでみた
ら面白くなって。ほかの本も読みた
い！ っと思ってたんですけど、また
見に行ったときにその場所を覚えて
いなかったんです。そこで、「あのー、
ムーミンの本はどこですか」って図
書館の人に聞いて教えてもらった
なってというのが最初の図書館の記憶
として覚えていて(笑)。

ほお〜！ 原体験ですね。

そうなんです。それもあってムーミ
ンがちよっと思い出深いです。

ムーミンの魅力とは？

誰のためにでもある感じがする。
ムーミンの登場人物って、本当にい
ろんな人が出てくるんですよ。で
もムーミンの世界では「どうして来
たの？」とかそんなことはなくて、
全部受け入れてくれる。好きにして
いいんだよって感じ。今読むと、1
人である人とか、悩んでいる人とか、
そういうそれぞれの人が読んだら
それぞれの受け止め方があるんじ
ゃないかなって。子ども向けに書いて
あるけど、大人向けでもあるなあと
思います。

◆ ◆ ◆
今後NDLはどうあるべきと思いま
すか。

もっと一般の人に知られたらいい
なって思いますね。「こういうこと
やっているんだったら、もっと広報
してよ」と言われたりする。あとやっ
ぱり入りにくいって言われるんです
よね。敷居が高いつて。もうちょっ
と身近になればいいなって思いま
す。

国際子ども図書館はまだ東京本館に

比べたら入りやすいかと思うん
ですけど、それでもやっぱり？

上野のメインのエリアから外れてい
るので、国際子ども図書館って入っ
ていいの？ っとなる人はいます
ね。LINEの友だち機能とか、今
だったらNDLアプリを作るとか。
グッズ販売でもいいです。もう少し
一般の人の感覚に沿ってもいいん
じゃないかなって思います。



フィンランドのムーミンワールド。

成人の儀式

—古代から近世まで—

国立国会図書館は令和4年4月14日に、三二電子展示「本の万華鏡」第31回「成人の儀式—古代から近世まで—」を公開しました。

サイトでは昔の成人の儀式について、公家・武家・庶民の3部構成で紹介します。徳川家康や源義経など歴史上の有名人物の「成人」にまつわるエピソードや、『栄花物語』『落窪物語』をはじめとする文学作品からの紹介も盛り沢山です。

「元服」という言葉は聞いたことがあっても実際どのようなことをするのか、あまりイメージが湧かない方も多いと思います。また、女性の元服に当たる「裳着」の儀式については初めて聞くという方も少なくないでしょう。

この機会に日本の成人の儀式の歴史をたどってみませんか？

公家の成人

「元服」や「裳着」などの、かつて日本で行われていた成人の儀式。これらはまず中国から伝わり、公家を中心に行われました。



武家の成人

平安時代末頃から、武家の間でも公家の作法にならって儀式が行われるようになり、戦乱を経て形を変えながらも受け継がれました。



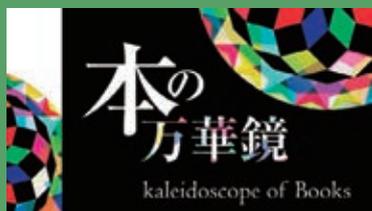
コラム

七五三

子の成長を祝う、もう一つの儀式、七五三。コラムではその歴史を簡単にご紹介します。

江戸時代には庶民も略式ながら成人の儀式を行うようになりました。また男女ともに服装や髪型、化粧を変えて、成人したことを示しました。

庶民の成人



「本の万華鏡」は「化粧」「流行り病」「和菓子」「温泉」など31のテーマで、国立国会図書館の蔵書をご紹介します展示会です。どなたでも当館サイトからご覧いただけます。

URL: <https://www.ndl.go.jp/kaleido/entry/31/>



本の万華鏡

検索

本屋に

ない

本

アジアには、伝統的に木を用いて建物を建てる国があります。日本がそうですし、東南アジアのミャンマーもその一つです。しかしながら、その建築様式が国や文化によって違うのはもちろんのこと、古い木造建築を保存するための課題、そしてそもそも歴史的建造物の「保存」自体に対する考え方が、さまざまであるようです。

本書は、東京文化財研究所が2015年（平成27年）2月13日に開催した研究会「ミャンマーの木造建築文化」の報告書です。ミャンマーの伝統的木造建築（仏教僧院や住居）とその保存について、研究会での4本の発表とパネルディスカッションの議論が、日本語版と英語版で収録されています。

ます。それらでは主に、これまでの研究成果を紹介し、望ましい保存のあり方を述べています。

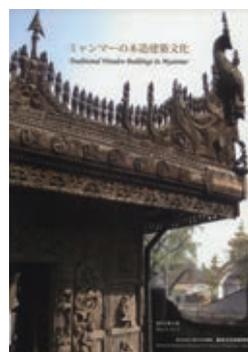
たとえば、一つ目の発表では、18世紀から19世紀に建立・建造された木造建築に関して、その意匠や空間構成を解説しています。そして、今後の保存のための課題として、ミャンマー政府が歴史的建造物の保存に関するガイドラインなどを定めるとともに、伝統的木造建築を調査し、それを記録することを提案しています。

三つ目の発表では、建築技術の観点から、ミャンマーの伝統的木造建築の構造が、掘立式であることなどを明らかにしています。さらに、現在実施されている修理手法の問題点を指摘し、

元の様式の調査や失われた技術の復元と継承が重要であると述べています。

最後のパネルディスカッションでも、歴史的建造物の保存方法について、発表者の意見が述べられます。ミャンマー人の研究者からは、僧院を地域社会の中心として、保存・修復・改修を進めていくべきだと言う意見が出されます。他方、日本の研究者からは、仏教への篤い信仰心のために、古い木造の僧院が建て替えられたり、元の様式とは違った「再建」がされたりした事例が紹介されます。そして、人々が、現存する建造物をそのまま残すことの重要性を認識すべきであると指摘しています。

このように詳細に見ていくと、歴史



ミャンマーの木造建築文化

Traditional wooden buildings in Myanmar

国立文化財機構東京文化財研究所
2015.3 171p ; 30cm
< 請求記号 KA111-L2 >

的建造物の「保存」に対する考え方が、国や地域、宗教などによって、異なることがあると分かります。本書は、ミャンマーの事例を通して、歴史的建造物の保存とその技術の継承について考えるのに、参考となる視点を提示しています。

本書の内容は、専門的なものではありませんが、木造建築やその木彫の装飾の写真などが多く掲載されているため、ミャンマーの文化や建築学に親しみのない人でも楽しめるものとなっています。ぜひ、多くの方に手に取っていただきたい一冊です。

(杉野晟也)

※本書は東京文化財研究所ホームページでPDFが閲覧可能です。

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介いたします。

NDL Topics

図書、雑誌等を「国立国会図書館デジタルコレクション」に追加しました

国立国会図書館は、左記の約23,500点を「国立国会図書館デジタルコレクション」に追加しました。

国立国会図書館デジタルコレクション (<https://dl.ndl.go.jp/>) に追加した資料 (3月15日)

コレクション	追加数
図書	約300点
雑誌	約6,300点
古典籍資料	約500点
憲政資料	約3,900点
日本占領関係資料	約10,100点
プランゲ文庫	約1,100点
録音・映像関係資料	約600点
地図	約400点
特殊デジタルコレクション	14点
パッケージ系電子出版物	約300点

※「国立国会図書館デジタルコレクション」では、本文をインターネット公開していない資料についても、書誌事項(タイトル、著者等)はインターネットから検索できます。

利用者アンケートについて

国立国会図書館では、提供する各種サービスを改善するために、アンケートを実施しています。

令和3年度利用者アンケート結果公表のお知らせ

令和3年度は、国立国会図書館のサービスを利用されている方々に対する利用者サービスアンケートに加え、個別のコンテンツやサービスについてもアンケートを実施しました。アンケート結果の詳細はホームページで公表しています。ご協力くださった皆様に厚くお礼申し上げます。この結果をふまえて、サービスや業務の改善に活かしてまいります。

○令和3年度利用者アンケート結果のページ

https://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/enquete/enquete2021_01.html

国立国会図書館ホームページ▽国立国会図書館について▽利用者アンケート▽令和3年度利用者アンケート結果

令和4年度利用者アンケートご協力をお願い

左記のアンケートページから皆様のご意見をお聞かせください。

○アンケートページ

<https://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/enquete/index.html>
国立国会図書館ホームページ▽国立国会図書館について▽利用者アンケート

利用者サービスアンケート

国立国会図書館のサービスを利用されている方々を対象としたウェブアンケートです。

※実施期間 5月6日(金)～10月31日(月)

各コンテンツ・サービスについてのアンケート

個別のコンテンツやサービスについての各種アンケートの実施も予定しています。

※実施期間 コンテンツ、サービスごとに異なります。実施時にアンケートページ及び各コンテンツ、サービスのページ等でお知らせします。

○問合せ先

総務部企画課 評価係

電子メール hyoka@ndl.go.jp



NDL Topics

新刊案内

レファレンス 856号

「奴隷制の抜け道をふさぐ」―米国における憲法改正の動向―

富裕層減税とトリクルダウン―所得格差の規定要因をめぐっての考察と論点整理―

日本におけるLRT導入の現状と課題―公共交通政策と都市の持続可能性―

GIGAスクール構想における著作権制度の課題



A4 102頁 月刊 1,100円(税込)
発売 日本図書館協会

入手のお問い合わせ
日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14
電話 03(3522)0812

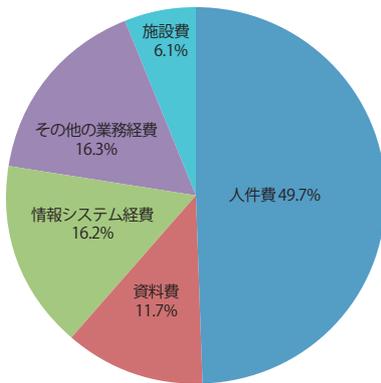
国立国会図書館の令和4年度予算

国の令和4年度予算が令和4年3月22日に成立しました。国立国会図書館の令和4年度歳出予算額は、202億4336万1000円です。その概要は、表のとおりです。

令和4年度歳出予算額 (単位：千円)

(項) 国立国会図書館	19,003,302
人件費	10,051,666
国立国会図書館共通経費	178,703
国会サービス経費	286,749
資料費	2,375,633
うち納入出版物代償金	397,476
情報システム経費	3,280,642
東京本館業務経費	1,590,690
国際子ども図書館業務経費	262,374
関西館業務経費	976,845
(項) 国立国会図書館施設費	1,240,059
東京本館庁舎整備費	689,156
関西館庁舎整備費	490,221
国際子ども図書館庁舎整備費	60,682
計	20,243,361

予算の費目別構成比(令和4年度)



#29 東京本館 国立国会図書館
ギャラリー前に置かれた模型
(東京本館)

6

NATIONAL
DIET
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2022.6

NO.734

JUNE
2022

CONTENTS

- 01 <Book of the month - from NDL collections>
Lienhard und Gertrud
The ideal model in the novel: Family, nation, and education
- 04 The initial stages of the NDL, located at the Akasaka Palace
- 14 The Personal Libraries of Well-Known People (6)
Who was the former owner of these books?
The (presumed) MATSUDAIRA Yoshitami Collection
- 20 Working at the NDL, Season 2 Episode 9
- 24 Kaleidoscope of books (31)
Coming-of-age rituals: From ancient times to early modern times
- 13 <Tidbits of information on NDL>
The challenge of our first webinar
- 26 <Books not commercially available>
Traditional wooden buildings in Myanmar
- 27 <NDL Topics>

国立国会図書館月報

令和4年6月号 (No.734)

令和4年6月1日発行

発行所 国立国会図書館
編集者 松浦 茂
責任者

印刷所 株式会社丸井工文社

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03 (3581) 2331 (代表)
FAX 03 (3597) 5617
E-mail geppo@ndl.go.jp
<https://www.ndl.go.jp/>

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。
本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。
本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ (<https://www.ndl.go.jp/>) >刊行物>国立国会図書館月報でご覧いただけます。



NATIONAL
D I E T
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2 0 2 2 . 6

 国立国会図書館
National Diet Library, Japan

図

国

国

書

人

士